

ルーメンアシドーシス予防

pH調整剤 **重曹** (炭酸水素ナトリウム)



牛の第1胃（ルーメン）には、いろいろな働きを持つ数えきれないほど多くの種類の細菌や原生動物などの微生物が棲んでいます。それらの微生物は、草の主成分であるセルロースを分解する酵素（セルラーゼ）を持つものがいて、牛が食べた草やデンプンを発酵分解して酢酸、プロピオン酸を主体とする揮発性脂肪酸（VFA）を作ります。VFAはルーメン壁から吸収され、エネルギーとして利用されます。

牧草など粗飼料が給与されると、ルーメン内のpHは中性の7前後となり、産生されるVFAの70%を酢酸が占める良い発酵状態となり、牛は健康を維持できます。しかし、粗飼料の割合が下がり配合飼料の摂取が多くなると、酢酸の割合が減少して、逆に、酪酸やプロピオン酸の割合が増え、pHが低下してきます（pH 6以下）。pHが5以下では、さらに乳酸の産生量が増え、アシドーシスという病気になります。



これは胃の中の微生物達が死んでしまい栄養を吸収できず、消化不良のまま下痢となってしまい、牛の体調が悪くなることによって、ミルクの生産性低下、繁殖成績低下などをまねきます。蹄葉炎や蹄底潰瘍などの併発発生率もかなり高くなります。

アルカリ性である重曹の役割は、ルーメンのpHを6以下にさせない（酸性にならない）ようにすることです。

ルーメンアシドーシスを発生させないために大切なこと (出典：根室生産農業協同組合連合会 生産振興課)

**配合飼料ばかり選んで
採食しないように飼料給餌する**
(1日に6回以上は掃き寄せをしてください)

重曹を給与する
(一日200g程度給与するか、牛が自由に舐めれるように用意してください)

十分な飲水量を確保する
(きれいな水槽できれいな水を好きなだけ飲水できるようにしてください)

ダイセルファインケム株式会社

北海道標津郡中標津町東3 7条南1丁目7-1
TEL : 0153 - 73 - 3005